

1

解答例のページへ

平面上の三角形 OAB を考える。 $\angle AOB$ は鋭角、 $OA = 3$ 、 $OB = t$ とする。また、点 A から直線 OB に下ろした垂線と直線 OB の交点を C とし、 $OC = 1$ とする。線分 AB を $2:1$ に内分する点を P 、点 A から直線 OP に下ろした垂線と直線 OB との交点を R とする。

- (1) 内積 $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB}$ を t を用いて表せ。
- (2) 線分 OR の長さを t を用いて表せ。
- (3) 線分 OB の中点を M とする。点 R が線分 MB 上にあるとき、 t のとりうる値の範囲を求めよ。

2

解答例のページへ

次の条件によって定められる数列 $\{a_n\}$ がある。

$$a_1 = 1, \quad a_{n+1} = \frac{2n-1}{2n}a_n \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

- (1) 正の整数 k, l に対して, $\frac{k}{k+l-1}a_{k+1}a_l + \frac{l}{k+l-1}a_k a_{l+1} = a_k a_l$ が成り立つことを示せ。
- (2) 正の整数 m に対して, $\sum_{k=1}^m a_k a_{m-k+1} = 1$ が成り立つことを示せ。

3

解答例のページへ

座標平面において、 $y = x^2 - 1$ で表される放物線を C とする。 C 上の点 P における C の接線を l とする。ただし、点 P は y 軸上にはないものとする。 O を原点とし、放物線 C と線分 OP および y 軸で囲まれた図形の面積を S 、放物線 C と接線 l および y 軸で囲まれた図形の面積を T とする。 $S - T$ の最大値を求めよ。

1

問題のページへ

- (1) $OA = 3$, $OB = t$, $\angle AOB$ が鋭角の $\triangle OAB$ において, A から OB に垂線 OC を下ろし, $OC = 1$ であるとする,

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = |\overrightarrow{OA}| |\overrightarrow{OB}| \cos \angle AOB = |\overrightarrow{OC}| |\overrightarrow{OB}| = t$$

- (2) $AP : PB = 2 : 1$ より, $\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3}(\overrightarrow{OA} + 2\overrightarrow{OB})$

また, A から OP に垂線を下ろし, OB との交点を R とするとき $\overrightarrow{OR} = k\overrightarrow{OB}$ とおくと, $\overrightarrow{AR} = -\overrightarrow{OA} + k\overrightarrow{OB}$ となる。

そこで, $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{AR} = 0$ から, $(\overrightarrow{OA} + 2\overrightarrow{OB}) \cdot (-\overrightarrow{OA} + k\overrightarrow{OB}) = 0$ となり,

$$-|\overrightarrow{OA}|^2 + (k-2)\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} + 2k|\overrightarrow{OB}|^2 = 0, \quad -9 + (k-2)t + 2kt^2 = 0$$

すると, $t(2t+1)k = 2t+9$ から, $k = \frac{2t+9}{t(2t+1)} > 0$ なので,

$$OR = |\overrightarrow{OR}| = k|\overrightarrow{OB}| = \frac{2t+9}{t(2t+1)} \cdot t = \frac{2t+9}{2t+1}$$

- (3) 線分 OB の中点を M とすると $OM = \frac{t}{2}$ となり, R が線分 MB 上にある条件は,

$$\frac{t}{2} \leq \frac{2t+9}{2t+1} \leq t, \quad t(2t+1) \leq 2(2t+9) \leq 2t(2t+1)$$

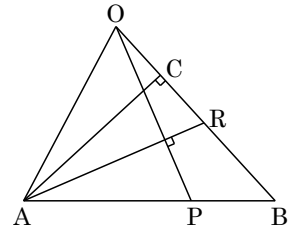
まず, $t(2t+1) \leq 2(2t+9)$ に対して, $2t^2 - 3t - 18 \leq 0$ となり,

$$\frac{3-3\sqrt{17}}{4} \leq t \leq \frac{3+3\sqrt{17}}{4} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

また, $2(2t+9) \leq 2t(2t+1)$ に対して, $2t^2 - t - 9 \geq 0$ となり,

$$t \leq \frac{1-\sqrt{73}}{4}, \quad \frac{1+\sqrt{73}}{4} \leq t \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

したがって, $t > 0$ と $\textcircled{1}\textcircled{2}$ を合わせると, $\frac{1+\sqrt{73}}{4} \leq t \leq \frac{3+3\sqrt{17}}{4}$ である。



[コメント]

平面ベクトルの基本題です。最後の計算はちょっと面倒でしたが。

2

問題のページへ

- (1) $a_1 = 1$, $a_{n+1} = \frac{2n-1}{2n}a_n$ で定められる数列 $\{a_n\}$ に対して,

$$\begin{aligned} ka_{k+1}a_l + la_k a_{l+1} &= k \cdot \frac{2k-1}{2k} a_k a_l + la_k \cdot \frac{2l-1}{2l} a_l = \frac{2k-1}{2} a_k a_l + \frac{2l-1}{2} a_k a_l \\ &= (k+l-1)a_k a_l \end{aligned}$$

したがって, $\frac{k}{k+l-1}a_{k+1}a_l + \frac{l}{k+l-1}a_k a_{l+1} = a_k a_l \cdots \cdots \textcircled{1}$ が成り立つ。

- (2) まず, 正の整数 m に対して, $S(m) = \sum_{k=1}^m a_k a_{m-k+1}$ とする。

$\textcircled{1}$ において, $l = m - k + 1$ とおくと, $1 \leq k \leq m$ から $l \geq 1$ となり,

$$\frac{k}{m} a_{k+1} a_{m-k+1} + \frac{m-k+1}{m} a_k a_{m-k+2} = a_k a_{m-k+1}$$

$$m a_k a_{m-k+1} = k a_{k+1} a_{m-k+1} + (m-k+1) a_k a_{m-k+2} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

さて, 以下, $S(m) = 1$ であることを数学的帰納法を用いて示す。

- (i) $m = 1$ のとき $S(1) = \sum_{k=1}^1 a_k a_{2-k} = a_1 a_1 = a_1^2 = 1$ より成り立つ。

- (ii) $m = i$ のとき $S(i) = \sum_{k=1}^i a_k a_{i-k+1} = 1$ が成り立つと仮定する。

このとき, $S(i+1) = \sum_{k=1}^{i+1} a_k a_{i-k+2} = \sum_{k=1}^i a_k a_{i-k+2} + a_{i+1} a_1$ となり,

$$\begin{aligned} S(i+1) - S(i) &= \sum_{k=1}^i a_k a_{i-k+2} - \sum_{k=1}^i a_k a_{i-k+1} + a_{i+1} a_1 \\ &= \sum_{k=1}^i (a_k a_{i-k+2} - a_k a_{i-k+1}) + a_{i+1} a_1 \cdots \cdots \textcircled{3} \end{aligned}$$

さて, $\textcircled{2}$ から, $m(a_k a_{m-k+1} - a_k a_{m-k+2}) = k a_{k+1} a_{m-k+1} - (k-1) a_k a_{m-k+2}$ となり,

$$a_k a_{m-k+2} - a_k a_{m-k+1} = \frac{1}{m} \{ (k-1) a_k a_{m-k+2} - k a_{k+1} a_{m-k+1} \}$$

そして, $m = i$ と置き換えて,

$$a_k a_{i-k+2} - a_k a_{i-k+1} = \frac{1}{i} \{ (k-1) a_k a_{i-k+2} - k a_{k+1} a_{i-k+1} \} \cdots \cdots \textcircled{4}$$

さらに, $b_k = (k-1) a_k a_{i-k+2}$ とおくと, $b_{k+1} = k a_{k+1} a_{i-k+1}$ となることより, $\textcircled{4}$ は $a_k a_{i-k+2} - a_k a_{i-k+1} = \frac{1}{i} (b_k - b_{k+1})$ と表せるので, $\textcircled{3}$ に代入して,

$$\begin{aligned} S(i+1) - S(i) &= \frac{1}{i} \sum_{k=1}^i (b_k - b_{k+1}) + a_{i+1} a_1 \\ &= \frac{1}{i} \{ (b_1 - b_2) + (b_2 - b_3) + \cdots + (b_i - b_{i+1}) \} + a_{i+1} a_1 \\ &= \frac{1}{i} (b_1 - b_{i+1}) + a_{i+1} a_1 = \frac{1}{i} (0 - i a_{i+1} a_1) + a_{i+1} a_1 = 0 \end{aligned}$$

すると, $S(i+1) = S(i) = 1$ となり, $m = i+1$ のときも成り立つ。

(i)(ii)より, 正の整数 m に対して, $S(m) = \sum_{k=1}^m a_k a_{m-k+1} = 1$ が成り立つ。

[コメント]

漸化式と数学的帰納法の融合問題です。ただ, (1)の結果を, (2)でどのように利用すればよいのか, その方法を見つけるのに時間をかなり費やしてしまいます。

3

放物線 $C: y = x^2 - 1$ に対して、 C 上の点 $P(t, t^2 - 1)$ とすると、 $y' = 2x$ から、 P における接線 l の方程式は、

$$y - (t^2 - 1) = 2t(x - t), \quad y = 2tx - t^2 - 1$$

そして、 l と y 軸の交点を Q とおくと、 $Q(0, -t^2 - 1)$ となる。

さて、 $t \neq 0$ のとき、 C と線分 OP および y 軸で囲まれた図形の面積を S 、 C と l および y 軸で囲まれた図形の面積を T とするとき、 $S - T$ の値については、 y 軸についての対称性から $t > 0$ として、

$$\begin{aligned} S - T &= (S + T) - 2T = \frac{1}{2}(t^2 + 1)t - 2 \int_0^t \{(x^2 - 1) - (2tx - t^2 - 1)\} dx \\ &= \frac{1}{2}(t^3 + t) - 2 \int_0^t (x^2 - 2tx + t^2) dx = \frac{1}{2}(t^3 + t) - 2 \left[\frac{x^3}{3} - tx^2 + t^2x \right]_0^t \\ &= \frac{1}{2}(t^3 + t) - \frac{2}{3}t^3 + 2t^3 - 2t^3 = -\frac{1}{6}t^3 + \frac{1}{2}t \end{aligned}$$

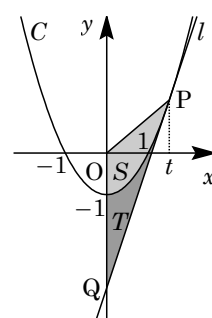
ここで、 $f(t) = S - T = -\frac{1}{6}t^3 + \frac{1}{2}t$ とおくと、

$$f'(t) = -\frac{1}{2}t^2 + \frac{1}{2} = -\frac{1}{2}(t+1)(t-1)$$

すると、 $t > 0$ における $f(t)$ の増減は右表のようになり、これより $S - T$ の最大値は $\frac{1}{3}$ である。

t	0	⋯	1	⋯
$f'(t)$		+	0	-
$f(t)$		↗	$\frac{1}{3}$	↘

問題のページへ



[コメント]

微積分の基本題です。 $S - T$ は普通に計算してもよいのですが、解答例では $S + T$ が $\triangle OPQ$ の面積であることを利用して、計算量を減らしています。